

2004年度 日本農芸化学会中四国支部大会

黒酵母 -β-グルカン投与によるアオウミガメ白血球の反応性

穴井直博¹、山崎香織^{2,3}、渡部嘉哉^{2,3}、_蒲生幸胤²、和田彬宏⁴、岡本純人⁴、池上裕倫^{2,3}、笠井優介⁵、亀崎直樹⁵、細川豊喜⁶、永田信治²、加藤伸一郎⁷、味園春雄^{2,7}
(¹のいち動物公園、²高知大・生資、³ソフィ、⁴高知小津高、⁵ウミガメ協議会、⁶高岡大敷組合、⁷高知大・遺伝子)

【目的】高知県室戸沖で捕獲したアオウミガメは、国内で唯一生存するフィブロパピロマ発症個体である。その腫瘍細胞片の遺伝子解析の結果、ヘルペスウイルスの感染が国内で初めて確認された。本研究では、動物への経口投与によって免疫応答が見られる黒酵母 -β-グルカンを、アオウミガメに経口投与したときに見られる白血球の反応性について検討した。【方法と結果】 -β-グルカンを自然摂取させるために、水温調整が可能な1トン水槽に黒酵母培養液を添加してアオウミガメを飼育した。経日的な採血と塗抹標本作製して白血球成分を比較し、フローサイトメーターを用いて白血球の活性化を検討した。その結果、β-グルカン投与による白血球の活性化反応の再現性が得られた。